



たぬしまる 久留米市立田主丸中学校通信

【教育目標】ともに未来を切り拓く「人間力」を身につけた生徒の育成
令和5年12月22日(金) No. 16 文責: 校長 立山雅夫

☆2学期が終わりました。(2学期終業式 式辞より)

1年間で最も長い、2学期が終わりました。そして、令和5年、2023年もまもなく終わります。生徒の皆さんにとっての今年1年はどんな年でしたでしょうか。今年も1年を振り返るとたくさんことができました。

5月の体育祭、夏の中体連大会、9月の体験学習、10月の文化祭、中体連新人大会、2年生は12月の修学旅行、3年生は3者面談など多くの行事等がありました。今年の5月初旬より、新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ扱いになりました。そのためか、コロナ禍の話も、世間ではあまり大きくと取り上げられなくなり、集団での集まりや行事等がコロナ禍前の状況に戻りつつあります。気は抜けませんが、学校行事等ができて、大変うれしく感じています。また、7月10日のこの田主丸町を襲った集中豪雨。災害復興に対して県外からもボランティアの方々が訪れ、励ましの言葉や復興支援をしていただきました。とてもありがたく、人の優しさやつながりの大切さを実感しました。

さて、2学期の始業式の式辞で紹介した「本気」「エンジン」の相田みつをさんの詩、覚えてますか？

「本気」の詩は

「なんでもいっからさ、本気でやっごらん。本気でやれば楽しいから。

本気でやれば疲れねえから。疲れても、疲れがさわやかだから。」

生徒の皆さん、2学期、何かに本気でとる組むことができましたか？

「エンジン」の詩は

「あのね。自分にエンジンをかけれるのは自分自身だからね。」

生徒の皆さん、2学期、やらなくてはならないことを、人から言われてやるのではなく、自ら行うことができましたか？

できた人は、気分もすがすがしいのではないかと思います。また、それだけ自分が成長できたのではないかと思います。あと一歩だった、できなかった人、これから意識して生活してください。

3年生のみなさん、今から進路獲得に向けての大切な時期です。3者面談も終え、しっかりと目標が定まったことだと思います。何のために、誰のために、頑張るのか。また、目的を持って、計画を持って、最後まであきらめずに生活してください。

1、2年生も、来年は進級する年となります。2学期の自分の姿を振り返り、新年の目標をしっかりとて、その目標が達成できる年にしてください。

継続は力なり、「優しさ・やる気・やり抜く力」で新しい年も頑張ってください。

3学期始業式は、1月9日(火)です。生徒の皆さんが、充実した冬休みを過ごすこと、無事で、そして笑顔で学校に登校してくれることを期待しています。

☆くるめ「小さな親切」運動の会表彰式

第30回くるめ「小さな親切」運動の会の作文コンクールにおいて、3年生の古賀美陽さんが見事、最高賞の会長賞を獲得しました。中学生700点あまりの作文の中から1名選ばれた優良賞で、12月16日(土)筑邦銀行本店3階大ホールで賞状の授与式と代表の古賀美陽さんの朗読がありました。



その作文を、紹介します。

題名「小さな勇氣」 久留米市立田主丸中学校 古賀 美陽

「よかったら手伝いましょうか」私が勇気を振り絞ってかけた言葉。緊張していたけれど、あのおばさんの笑顔をみると、声をかけてよかったと心から思った。

私の地域では、毎月1回月曜日に資源物回収がある。地域のみんが参加するそこそこ大きい地域行事だ。しかし、私はあまり関わりがなかった。いつも、祖母や父、母など家族に任せっきりで自分から参加しようとしなかった。

ある日、父から「今週、資源物回収の担当になっているから手伝ってこないか」と言われた。最初は少しマイナスな気持ちもあったが、興味もあったので結局、父について行くことにした。

行ってみると、思った以上に人がいて驚いた。若い人や年配の方々まで幅広い年齢層の人たちが楽しそうに会話してうらやましいとも思った。でも、違う年代の人と話すのが怖くて父の後ろをずっとついてまわった。

父の手伝いをしながら周りを見ていると、一人の女性が目にとまった。その女性は、年配の方で大量の資源物を持ってきていた。私は、声をかけるか迷った。声をかけたかったが、勇気が出なかった。そのとき、父を見た。父は、私の方をじっと見ていた。父は、私に何か伝えたような真剣な顔だった。私は、そのおばさんに声をかける事を決意した。

「よかったら手伝いましょうか」、おばさんは、笑顔で「ありがとう」と言ってくれた。父のおかげで勇気を出して声をかけ、おばさんを手伝うことができた。人に親切をすることが、自分の成長につながる事を知ることができた。

今では、資源物回収で積極的に声をかけ、手伝いをすることができている。お礼を言われると、本当にうれしいし、達成感を感じることができた。

小さな親切は、自分を大きく成長させることや、相手や自分にとってもうれしいことだと学ぶことができた。また、小さな親切を積み重ねていくことで相手とコミュニケーションがとれよい関係に繋がっていくと思う。

これからは、より地域行事に参加し、学校生活や日常生活で自分の手が届く範囲から取り組んでいきたい。あのおばさんの笑顔を忘れずに。